

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601008	事業の開始年月日	平成28年11月1日
		指定年月日	平成28年11月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア東林グループホーム		
所在地	(252-0312) 神奈川県相模原市南区相南1-7-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月12日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

最寄小田急江ノ島線東林間駅より徒歩7分の閑静住宅地に立地。近隣には緑の楽しめる水道道路や東林間神社があります。「暮らしの場」としておだやかで明るく過ごせる時間・空間をめざしています。経験の少ないスタッフもおりますが、日々のチームプレーや教育研修を通じて、ご利用者のあるがまを受け入れ、思いやりと誠意を持って支え、つながりながら寄り添う職員集団を目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月13日	評価機関 評価決定日	令和8年4月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急江ノ島線「東林間」駅西口より徒歩7分ほどの住宅街に位置しています。近隣には公民館、小学校、神社のほか、「水道道（すいどうみち）」と呼ばれる遊歩道や相模緑道緑地があり、外出や地域との交流に適した環境にあります。

<優れている点>

地域社会への貢献と共生を大切にし、利用者が住み慣れた地域で役割を持って暮らし続けられる支援に注力しています。公民館での脳トレ体操やおしゃべりサロンへの参加、近隣公園の清掃活動などを職員と共に継続することで、地域住民との「顔の見える関係」を日常的に育んでいます。また、職員全員によるチームケアの実現を目指し、多様な背景を持つ職員が互いの専門性を活かして利用者へ寄り添っています。30年近い経験を持つベテランや外国出身の職員が、住まいとしての温かな雰囲気づくりを意識して快活な声かけを行うことで、利用者一人ひとりの安心感につながっています。

<工夫点>

チームケアの質の向上に向け、会社独自の研修を実施しています。介護福祉士資格の取得を目指す外国出身の技能実習生の育成に注力し、専門性を高める取り組みを継続しています。運営推進会議には利用者も参加し、日々の生活に関する要望などを忌憚なく話しています。その内容は議事録に残して職員間で共有し、日々のケアにつなげています。また、井戸水の活用による水道料金の節約や、2業者の献立の交互提供など、生活の質の維持と向上に向けた工夫を重ねています。移動パン屋の訪問時には地域住民にも参加を呼びかけ、利用者との自然な交流機会の創出にもつなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域との連携を盛り込んだ事業所理念を事務所に掲示し、毎朝礼で確認唱和している。管理者と職員が共通の意識付けの下でサービスを実践している。	事業所の理念は、個別ケアの徹底と「住まい」としての意識、チームケアの実現、地域社会への貢献の3点を分かりやすく表現しています。職員は朝礼時に唱和を行い、日々のケアにおいて理念を再認識するよう努めています。これら明確な指針を職員間で共有することで、一人ひとりの意識を高め、サービスの質の維持につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。近隣の方が施設の夏祭りに参加してくださっている。散歩の際なども地域の方との会話がある。	事業所の玄関前で開催する納涼祭では、利用者がヨーヨー釣りなどの催しを手伝い、地域住民と交流をしています。また、近隣神社の節分会や地元の阿波踊り大会といった行事に参加しています。こうした活動を通じて、住民の一員として地域社会に溶け込み、馴染みの関係を築くよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの認知症カフェに利用者と共に参加している。また、ベトナム、インドネシアからの技能実習生の受け入れを行っている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を実施、自治会の方や地域包括支援センター職員、ご家族等にご参加いただき、報告、情報提供、相談などを行っている。	自治会関係者や地域包括支援センターの職員が継続して出席し、虐待防止や安全対策、地域連携などの振り返りを行い、運営上の課題を話し合っています。会議には利用者も参加しており、詐欺電話への注意喚起など、生活に直結する情報を共有しています。出席者は話し合った内容を議事録に記録して職員間で共有し、日々の生活に関する要望をケアに活かせるよう取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設たよりを届ける等の際、適宜情報提供、相談している。困難事案や後見人制度利用の相談をしている。	地域包括支援センターで開催される認知症カフェに利用者に参加するなど、地域の資源を活用しています。また、生活保護受給者の支援においては行政職員の訪問を通じ、連携を図っています。親族との関わりが困難なケースや、利用料の支払いが滞った事案などについても行政に相談し、利用者の生活の安定に向けた支援体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針の下で、拘束防止委員会を3月に1回実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を3ヶ月おきに開催し、職員に対しては年に2回、法定研修を実施しています。毎月のフロア会議では、行動制限が利用者の心身に与える影響について話し合い、職員自身のケアを振り返る機会を設けています。こうした継続的な検討を通じて、身体拘束を行わない意識の定着と、不適切なケアの防止に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。	虐待防止委員会を身体拘束防止委員会と併せて開催しています。職員研修を年2回実施し、虐待の定義や種類について確認を行うとともに、自己点検シートを活用しています。自身のケアを客観的に振り返る仕組みを整えることで、不適切なケアの発生を防ぎ、虐待防止意識の維持を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。家族が疎遠になっている利用者には成年後見人を選出いただくよう関係者と話し合っていく。個人的に研修に行く等して勉強してくれている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等で紹介したりもしている。	運営推進会議への参加を利用者に促し、利用者が要望を伝える場合には、家族や関係機関と連携して対応を検討しています。毎月発行する広報誌「東林だより」では、家族に対して会議の開催日時を周知し、参加を呼びかけています。利用者の意向を汲み取るとともに、家族が意見を述べやすい環境づくりに努めています。	「東林だより」を家族に送付する際には、個々の利用者ごとに生活の様子を記述し、家族が意見、要望を言いやすくするように工夫することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。フロア会議への管理者の参加、運営推進会議に管理者だけでなくフロア職員も参加するなどしている。	毎月のフロア定例会議で職員の意見を聴取するほか、面談の場を設けています。管理者は日々の業務を通じて、職員が意見を述べやすいようコミュニケーションを図り、職員が出した意見を職員間で共有し、検討しています。個々の意見を組織の運営に活かせるよう、相談しやすい体制を整えています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守している。面談時にどのようなことをしていきたいかなど聴くようにしている。	管理者は日々の業務内容を把握し、適正な評価を行えるよう環境を整えています。また、外国人技能実習生が円滑に業務に従事できるよう、平易な日本語を用いるなどの配慮をしています。職員一人ひとりが能力を発揮し、安心して働き続けられる職場づくりを進めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施している。資格取得に対する法人援助の活用している。外国人職員向けの研修も行っている。	運営会社が主催する外国人技能実習生向けの研修を実施し、技能向上を支援しています。また、事業所においても管理者が中心となり、認知症ケアや看取り、感染症対策、事故防止などの研修を行っています。法人と事業所がそれぞれの役割を担い、専門的な知識の習得や質の高いケアを提供できる人材の育成につなげています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人の5つのグループホームで毎月事例検討会を実施し、情報共有・事例検討等でサービスの向上を図っている。また、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修等への参加、他ホームとのネットワークづくりを進めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するように努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月の施設での生活を写真付きのお便りにしてご家族に送っている。面会や、電話、お手紙の支援を行っている。	家族と協力し、利用者が以前から通っていた商店や美容院を継続して利用できるよう支援しています。また、数年前に逝去した利用者の家族から毎年季節の品が届くなど、退居後も関係が継続している事例があります。入居前の生活環境や人との繋がりを大切に、地域社会の一員として過ごし続けられるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性や興味関心等について職員間で情報共有に努めている。利用者様同士が交流できる機会を作りつつ、大きなトラブルが起きないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。ご逝去された利用者様のご家族が運営推進会議に参加してくださった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行している。	レクリエーションや散歩、テレビ視聴などの際に、馴染みのある話題や周囲の風景から会話を広げ、利用者の思いや意向の把握に努めています。自ら意思を表すことが難しい利用者に対しては、表情や様子の変化を観察しながら声かけを行い、要望の汲み取りを行っています。日々のコミュニケーションを積み重ねることで、本人の意向に沿った生活を送れるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話やレクリエーションの中等で、出身地や好きなもの、兄弟、時代等の話題を取り入れ、事前情報では把握しきれなかったことも知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族の意向確認や意見把握の機会が少ないが、介護リーダーが中心となって、課題やケアの内容をスタッフで話し合い、サービス内容の改善を図っている。	利用者からの希望を聴き取り、可能な限り意向に沿った対応を行っています。フロア会議では、同じ利用者であっても職員ごとに視点が異なることを踏まえ、それぞれの気づきを共有し、多角的な把握に努めています。今後は、家族の意向をより深く反映させるための機会として、家族会の開催なども視野に、交流の場を設けていくことを目指しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録にケアプランの課題やサービス内容が分かるようにしている。個別ケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ネットでの動画を活用した多種のレク等を実施している。食べたい物や個別外出など、出来る範囲で対応している。複数の利用者様からパンを食べたいという要望があり、近隣のパン屋さんの移動販売を取り入れた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	認知症カフェや地域行事に積極的に参加している。 また、図書館へ本を借りに行ったり、地域清掃に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行している。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。 入居前からのかかりつけ医に引き続きかかっている方もいる。	月2回の定期訪問診療のほか、利用者が希望する診療科がある場合には、家族の協力のもと受診を行っています。生活上の注意事項など、詳細な確認が必要な際は、職員の同行や医師への電話確認を実施しています。医療機関との連携を密にし、本人の希望を尊重しながら健康維持を図る体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話オンコールにて報告、指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院の相談員等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付している。家族からの要望により、訪問診療医との看取り同意をしている入居者がおられる。	入居時に重度化の指針を説明し、方針の共有を行っています。看取りが近づいた際には、本人、家族、管理者の同席のもとで医師から説明を受け、同意を得る仕組みを整えています。また、緊急時に家族と連絡が取れない場合の対応についても事前に確認を行い、同意書の取り交わしを通じて、不測の事態にも迅速に対応できる体制を確保しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めている。施設内研修を実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づく年2回の消防訓練の他に、大規模災害（大地震）を想定した初期行動マニュアルをつくり、防災訓練を実施している。消防訓練には自治会の防災部の方も参加して下さったりしている。	非常食や備品をリスト化し、4ヶ月に1回点検を行っています。年2回の消防訓練では、日中および夜間を想定し、水消火器を用いた消火訓練や非常階段での避難訓練を実施しています。また、自治会の防災担当の人にも参加を依頼し、地域住民の視点から助言を受けるなど、近隣との協力関係を大切に防災体制を整えています。	いざという時のため、地域との協力体制を築くためにも、地区の防災訓練に参加することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申送りや指導、教育研修等を通じ、画的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。	日々の関わりにおいて、一人ひとりに寄り添った対応を大切にしています。本人から意向を汲み取ることが難しい場合には、家族から生活歴などを聴取し、個々の背景を尊重した支援につなげています。また、効果的だった声かけや関わりは申し送りで共有し、他の職員も同様の実践ができるよう努めることで、一貫性のある丁寧な対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。介護リーダーがご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフに、主体がご利用者であることの意識付けを徹底し、業務を優先することなく、ご利用者に寄り添うよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や食後などの整容支援を行っている。また定期的に訪問美容師を呼び、希望者が施術を受けられるようにしている。希望者は入浴時に髪染めを行っている。レクリエーションでマニキュア等することもある。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの掲示、食前のメニュー説明、恵方巻やうなぎ等の季節の料理、誕生会、敬老会、クリスマス会等の行事に特別食を楽しんでいただいている。食事準備、片付けに参加していただいている。	口腔体操の後にその日のメニューを説明し、食事を始める準備を整えています。玄関前のプランターでは利用者と一緒に野菜を育て、収穫の喜びを共有することで食への関心を高める機会としています。また、日々の調理や盛り付けにおいても、安全面に配慮しながら利用者が役割を持って参加できるよう支援しています。行事の際は、本人の希望を取り入れ、季節感のある献立を提供できるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食事形態等にも考慮して対応。液体が摂取しにくい方にはゼリーや寒天を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行している。希望により訪問歯科診療を利用して、口腔内点検、義歯の修理等を行っている。軟らかい歯ブラシやポイントブラシ、口腔スポンジなどその方に合った物を使えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導にて失禁減少に努めている。日々の排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。トイレまで間に合わない方にはポータブルトイレを活用している。	排泄記録をもとに一人ひとりの排泄リズムを把握し、間隔が空いている人には個別に声かけを行っています。自立している利用者に対しても、トイレから出た際にさりげなく排泄の有無を確認するなど、状況に応じた見守りに努めています。また、失敗が生じた際などは、周囲の目に触れないよう速やかに居室や脱衣所へ誘導し、自尊心に配慮した対応を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者毎に入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応している。週2回の入浴を基本とし、シャワー浴や清拭で対応することもある。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいた。	体調などに応じて、清拭や足浴を取り入れるなど臨機応変に対応しています。菖蒲湯やゆず湯といった季節の入浴の際には、職員と一緒に買い物に出かけ、日本の文化に触れながら会話が弾む機会としています。入浴そのものだけでなく、準備の段階から季節を感じ、楽しむことができるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なシーツ交換や換気などの環境整備、日中の活動や外気浴支援、夜間の就寝の声掛けや傾聴など励行している。 画一的な消灯時間は設けず一人ひとりのペースで生活していただき、疲れのある方は昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習を励行している。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。 野菜を切る、料理の盛り付け、洗濯干し、テーブル拭き、絵を描く、ぬり絵、読書、時代劇鑑賞、編み物などされている方がいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応している。玄関前にはベンチを常設し利用者の話を傾聴することもある。フロア状況に応じて散歩を実施している。	利用者の希望に応じて、職員と一緒に買い物に出かける機会を設けています。玄関前のベンチに座って外気を感じたり、花の植え替えの様子を眺めたりするなど、日常的に屋外で過ごす時間を大切にしています。また、地域のイベントや清掃活動への参加を通じて、地域の人と挨拶を交わすなど、周囲とのつながりを継続できるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的な金銭管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品をメモによる依頼で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。 イベントや季節の飾りつけをご利用者と一緒に作るなどしている。	毎日、定期的に換気を行い、清潔で心地よい空気環境の維持に努めています。窓から雪景色や星、満月などを眺める機会を設けるなど、室内においても季節や自然の変化を感じられるよう工夫しています。また、季節の飾り付けはレクリエーションの一環として利用者と職員が一緒に制作し、館内に飾ることで、季節感あふれる空間づくりに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、テーブル以外の場所にも椅子やソファを置いて一息つける工夫をしている。 必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。	安全面などで制限があるものを除き、桐箆箆や植物、フィットネス器具など、利用者が希望する物品を持ち込めるよう配慮しています。使い慣れた家具や大切にしているものを身近に置いて生活できるよう支援することで、自分らしく落ち着いて過ごせる居室環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。 ご利用者が「できること」を安全に続けられるように低い物干しを用意するなど の工夫をしている。		

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域との連携を盛り込んだ事業所理念を事務所に掲示し、毎朝礼で確認唱和している。管理者と職員が共通の意識付けの下でサービスを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。 近隣の方が施設の夏祭りに参加してくださっている。 散歩の際なども地域の方との会話がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの認知症カフェに利用者と共に参加している。 また、ベトナム、インドネシアからの技能実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を実施、自治会の方や地域包括支援センター職員、ご家族等にご参加いただき、報告、情報提供、相談など行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設たよりを届ける等の際、適宜情報提供、相談している。 困難事案や後見人制度利用の相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針の下で、拘束防止委員会を3月に1回実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。家族が疎遠になっている利用者には成年後見人を選出いただくよう関係者と話し合っていく。個人的に研修に行く等して勉強してくれている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等で紹介したりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。フロア会議への管理者の参加、運営推進会議に管理者だけでなくフロア職員も参加するなどしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守している。面談時にどのようなことをしていきたいかなど聴くようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施している。資格取得に対する法人援助の活用している。外国人職員向けの研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人の5つのグループホームで毎月事例検討会を実施し、情報共有・事例検討等でサービスの向上を図っている。また、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修等への参加、他ホームとのネットワークづくりを進めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後にご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々なご様子を共有できるよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	毎月の施設での生活を写真付きのお便りにしてご家族に送っている。面会や、電話、お手紙の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性や興味関心等について職員間で情報共有に努めている。利用者様同士が交流できる機会を作りつつ、大きなトラブルが起きないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。ご逝去された利用者様のご家族が運営推進会議に参加して下さった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の会話やレクリエーションの中で、出身地や好きなもの、兄弟、時代等の話題を取り入れ、事前情報では把握しきれなかったことも知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族の意向確認や意見把握の機会が少ないが、介護リーダーが中心となって、課題やケアの内容をスタッフで話し合い、サービス内容の改善を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録にケアプランの課題やサービス内容が分かるようにしている。個別ケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ネットでの動画を活用した多種のレク等を実施している。食べたい物や個別外出など、出来る範囲で対応している。複数の利用者様からパンを食べたいという要望があり、近隣のパン屋さんの移動販売を取り入れた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	認知症カフェや地域行事に積極的に参加している。 また、図書館へ本を借りに行ったり、地域清掃に参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行している。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。 入居前からのかかりつけ医に引き続きかかられている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話オンコールにて報告、指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院の相談員等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付している。家族からの要望により、訪問診療医との看取り同意をしている入居者がおられる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めている。施設内研修を実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づく年2回の消防訓練の他に、大規模災害（大地震）を想定した初期行動マニュアルをつくり、防災訓練を実施している。消防訓練には自治会の防災部の方も参加して下さったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の送りや指導、教育研修等を通じ、画一的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。介護リーダーがご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフに、主体がご利用者であることの意識付けを徹底し、業務を優先することなく、ご利用者に寄り添うよう支援することに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や食後などの整容支援を行っている。また定期的に訪問美容師を呼び、希望者が施術を受けられるようにしている。希望者は入浴時に髪染めを行っている。レクリエーションでマニキュア等することもある。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの掲示、食前のメニュー説明、恵方巻やうなぎ等の季節の料理、誕生会、敬老会、クリスマス会等の行事に特別食を楽しんでいただいている。食事準備、片付けに参加していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食事形態等にも考慮して対応。液体が摂取しにくい方にはゼリーや寒天を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行している。希望により訪問歯科診療を利用して、口腔内点検、義歯の修理等を行っている。軟らかい歯ブラシやポイントブラシ、口腔スポンジなどその方に合った物を使えるよう支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導にて失禁減少に努めている。日々の排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。トイレまで間に合わない方にはポータブルトイレを活用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者毎に入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応している。週2回の入浴を基本とし、シャワー浴や清拭で対応することもある。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なシーツ交換や換気などの環境整備、日中の活動や外気浴支援、夜間の就寝の声掛けや傾聴など励行している。 画一的な消灯時間は設けず一人ひとりのペースで生活していただき、疲れのある方は昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習を励行している。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。 野菜を切る、料理の盛り付け、洗濯干し、テーブル拭き、絵を描く、ぬり絵、読書、時代劇鑑賞、編み物などされている方がいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応している。玄関前にはベンチを常設し利用者の話を傾聴することもある。フロア状況に応じて散歩を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的な金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品をメモによる依頼で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。 イベントや季節の飾りつけをご利用者と一緒に作るなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、テーブル以外の場所にも椅子やソファを置いて一息つける工夫をしている。 必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。 ご利用者が「できること」を安全に続けられるように低い物干しを用意するなど の工夫をしている。		

2025年度

事業所名 アクア東林グループホーム

作成日： 2026年 4月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反省させている。	家族様・その他自治会、民生委員へもご意見をいただき、運営推進会議、毎月のおたより、その他の機会に情報発信をする。	毎月のお便り、請求書送付時、運営推進会議のご案内とともに、ご意見を頂けるフォーマット、Fax返信用紙を同封して、ご意見等のフィードバックを実施する。	6ヶ月
2	16	○災害対策 地域との協力体制を構築するために、地域の防災訓練に参加する。	市町村の防災訓練・自治会の防災講習会等への積極的な参加、消防署協力の元、防災・災害対策訓練への呼びかけ参加を実施。	第一段階として東林間自治会を通じて地域住民の方々と防災訓練に参加、避難誘導時のご協力等を頂く機会を設ける。更に施設に設置してあるAEDの使用方法等の訓練も実施する。(2026年9月実施予定)	5ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月